

社内ベンチャー制度から生まれた2つの新事業が本格始動 女性起業家に特化したCVC事業及び伝統工芸と企業のコーディネート事業で新たな価値の提供へ

ポーラ・オルビスホールディングス（本社：東京都中央区、社長：鈴木郷史）は、2018年より社内ベンチャー制度から生まれた2つの新事業を本格始動させます。



2016年11月より、社内ベンチャー制度の公募を開始。約2ヶ月間で、国内外から50件を超える応募がありました。書類審査、事業化計画プレゼンテーション、事業計画作成プロジェクトの期間を経て、正式に2つの新しい事業の立ち上げが承認されました。

ベンチャー制度 最終選考通過者
写真左：神倉 諒
写真右：岸 裕一郎

女性起業家特化 コーポレートベンチャーキャピタル事業（提案者：岸 裕一郎）

- 女性起業家（主にシード・アーリー期）への投資・支援
- 女性起業家創出プログラムを通じた育成・支援

女性の社会進出を応援してきたポーラ・オルビスグループとして、次世代のロールモデルとなる女性リーダーの創出を目指し、主にシード・アーリー期の女性起業家への投資・支援を実施すると共に、女性起業家創出プログラム（社外との提携やセミナー実施等）を通じた育成と、化粧品事業で培ったブランディング、チャネル構築といったノウハウ等を活かしたサポートを行います。

伝統工芸と企業のコーディネート事業（提案者：神倉 諒）

- 伝統工芸品を活用したノベルティ制作の企画提案
- 伝統工芸と企業間の契約支援

ポーラ・オルビスグループは、「人は内面の美しさが大切、いかに外面が美麗であっても、内面美がなければその価値はない」との考えから、内面の美しさの支えとなる文化・芸術を支援し、日本国内、世界に発信しています。

本事業では、伝統工芸の活躍の場を創造し、さらなる発展に寄与すべく、CSR/CSV活動が盛んな企業や、顧客向けのイベント・キャンペーンを行う企業に対し、伝統工芸品のノベルティ活用などの企画提案を軸に、契約支援などのコーディネートを行います。

社内ベンチャー制度の目的

1. 新ブランド・新規事業の創出・育成 〈成長への直接的貢献・寄与〉
 - 2020年、2029年（創立100周年）を見据えて、グループの新たな成長ドライバーとなる新ブランド・新規事業を創出・育成する。
2. 新グループ理念の「実現」 〈将来の成長への布石・基盤構築〉
 - グループ内から継続的に新ブランド・新規事業が創出される、組織風土の醸成。